

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年10月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691100083
法人名	株式会社 ファミュー
事業所名	ふれあいホーム小泉
所在地	富山県射水市小泉310-1
自己評価作成日	平成29年9月20日
評価結果市町村受理日	平成29年12月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成29年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の名称にある『ふれあい』の言葉を念頭に置きながら、地域の人とのふれあいやこれまでの利用者と家族との絆を大切に、利用者お一人お一人の思いを汲み取りながら支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、心にゆとりを持って笑顔で利用者に接するよう心がけている。家族には、面会時や家族交流会の機会に、丁寧に要望などを聞き、また家族から栗の差し入れがあれば、栗ご飯を炊くなど、家族と信頼関係を築くよう努めている。地域からは、笑いヨガボランティアの訪問を受け、皆で体を動かしながら大声で笑い合うなど、利用者、家族、地域の人達とのふれあいを大切にした運営に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

ふれあいホーム小泉

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が出勤時、目につく玄関にあり、「幸せと安心の実現」を掲げ支援を行っている。また理念を念頭に置きながら、毎年3月には前年度の各ユニット目標の反省と、次年度の目標を決め支援を行っている。ユニット目標も玄関に貼り出している。	玄関に掲示してある理念を都度確認し共有している。また、理念を実践するため、ユニットごとに職員で具体的な年度目標を立て、理念の実践につながる日々の支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設より地域の伝承の会のボランティアの方々に定期的に来所して頂き、交流を深めている。また地域の公民館祭りにも積極的に参加し交流を図っている。	近所の人達と挨拶を交わしたり、毎月音楽ボランティアの慰問を受け、馴染みの歌と一緒に口ずさむなど、地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所見学時や入居申込時等、在宅介護で困っている事があれば、認知症の人の理解や援助方法など、分りやすく説明を行っている。また地域包括支援センターからの協力依頼や地域住民からの相談にいつでも乗れるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場を利用し、外出時、利用者の日々の生活の様子や写真や、動画をパソコンを使って具体的に紹介している。自治会長及び民生委員の協力のもと、地域との交流について協議をしている。	自治会、地域包括支援センター職員、家族などの参加があり、日頃の様子を動画で報告し、意見や感想を述べてもらい、サービスの向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や支援方法についての相談が生じれば、直ぐに連絡し協議を行っている。より良いサービス提供に繋がるよう指導、助言を受け協力関係を築いている。	運営推進会議には市の職員が参加しており、その場で利用者のADL（日常生活動作）状態や、職員確保の課題などを報告し、助言を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は玄関の施錠は行わない。利用者の状況に応じ見守り強化し、拘束しないサービスが定着している。	身体拘束の弊害などを職員に周知し、職員間で互いに声をかけ合いサポートしながら、安全に配慮し、抑圧のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活の中で全職員が虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度及び日常生活自立支援事業を必要とする利用者はおらず、それらに関する研修を受けていない。今後はミーティングや外部研修の参加の機会を設け職員への理解が深められるよう取り組んで行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を読み上げるだけでなく、家族が分かりやすく理解出来るように、契約に関するQ&Aや具体例をあげて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを常に考え、信頼関係が築けるように努めている。面会時に最近の利用者の様子を伝え、出された意見や要望に対して反映出来るように努めている。	利用者からの「また菖蒲の花、見に行きたい」などの声に応えたり、家族には「何でも言ってもらうとありがたい」という雰囲気をづくり、面会時や家族交流会などの機会に丁寧に要望を聞くよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より職員からの意見や提案を随時聞き入れている。又、職員会議を通して職員からの意見や提案等を聞く機会を設け働きやすい職場作りに努めている。	毎月の職員会議では、業務見直しの提案などを受けている。また、代表者や管理者は、共に現場に携わる者として、職員からの相談にのり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の勤務態度や協調性等を昇給や賞与に反映させ職員の頑張りを評価している。頑張りに対しては、その都度言葉で、評価や感謝を伝えている。出来るだけ職員の事情に応じた勤務体制になるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの向上を目指し、定期的に事業所内で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各種研修会を通じて市内の同業者と、情報交換や交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使い一人ひとりの利用者の生活歴の把握と、入所当初の関わりを多くし、利用者の生活環境の変化による不安を取り除けるよう支援している。利用者の要望や困っている事が解決できるよう利用者に向き合い、お互いにより良い関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や生活状況を聞く事で、今までの思いやこれからの思いを理解し、どのような対応が出来るか話し合い、安心して利用出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、センター方式を活用し、本人及び家族の思いや状況を把握し、日々の生活状況の報告による支援方法の提案を行い、必要としているサービスが提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす者同士として、出来る利用者には職員と一緒に洗濯物畳み等の家事を行ったり、季節のイベントや誕生会を行い、お互いに感謝の気持ちを伝えあう事を大切にする関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者の絆や、一緒に過ごす時間を大切に出来るよう面会、外出、外泊の時間制限を設けず行えるようにしている。お盆や年末年始も事前に予定を聞く等して家族との関わりを保てるように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、利用者は在宅時に利用していた美容院等に入居後も継続して利用され、利用者一人ひとりの馴染みの場所や人が途切れないように支援を行っている。	家族と一緒に行き慣れた美容院に行き、道中の風景に見入ったり、お客さんと世間話をしたりしている。また、亡夫の月命日にお寺さんにお参りに来てもらうなど、馴染みの人や場との関係継続支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく過ごせるように職員が間に入って一緒に食事を取るなど、良い関係が保てるように働き掛けをしている。心身の状態や感情により利用者同士の関係にも変化がある為、注意し見守りを強化している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等による退居後の入所先に対する不安が大きく、家族や病院のソーシャルワーカーと連携を取りながら、その後の経過を見守るようにしている。また、入院によって利用が途中中断した場合でも、病状の経過や家族の要望により居室の確保に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活支援の中で利用者お一人お一人に寄り添い、意向や希望の確認に努め、関わりの中で思いを汲み取りながら利用者のペースで支援を行っている。	日頃の会話の中から利用者の意向を聞いたり、家族に仲立ちしてもらったり、利用者の表情などから、声にならない思いを受け止めるなど、利用者の本心を推し測るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、家族からこれまでの生活歴、日々の過ごし方、サービスの利用状況等を確認し、利用者が自分らしく暮らしていける為の支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムをセンター方式を活用して情報の共有を図り、利用者の行動や表情の変化、会話から心身の状態を感じ取り、その人全体の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、常に状態の把握に努め、新たな課題が生じた場合などは、関係者間でカンファレンスを実施し、ケアの在り方や支援方法の変更を行っている。	家族からの「自宅にいた時の生活を継続させてほしい」などの要望に応え、事業所の暮らしの中でどう具体的に支援するかをカンファレンスで話し合っ、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況及び日々の記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。また個別ファイル以外に毎日の気づきが記入できる連絡ノートを作成し、職員同士の情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望、状況に応じて行政手続き代行の支援等、必要に応じて出来る限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日少しずつ貼り絵等の作品を作成して、地域の公民館祭りの作品展に出展し、達成感や観覧の楽しみを持つ事が出来るよう地域と連携し支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は本人や家族の希望に応じている。必要な医療が受けられるように協力医と連携を取って支援している。	入居前からのかかりつけ医には、家族に受診同行をお願いしている。また、事業所の協力医の訪問診療を希望する利用者には、受診結果を家族に報告するなど、医療面の連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師は協力医療機関の看護師と日々の状況や利用者の体調管理等を綿密に連絡、相談を行い、利用者が安心して生活出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院までの状況を介護サマリーにて情報を伝えたり、必要に応じて直接医師や看護師に詳しく伝え、安心して治療が出来るように支援している。また定期的に見舞いに行った際、早期に退院出来るように担当看護師と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には重度化が進んでいく段階で、医療的な処置には対応出来ない事など、事業所が出来る支援を十分に説明を行っている。必要に応じて協力医療機関と相談の上、今後の支援方法を家族と話し合っている。	日頃から重度化や看取りに関する家族の思いを聞き、具体的に今後の方針を決めるような段階になれば、医師の所見をもとに、事業所としてできること、家族に協力してほしいことなどを説明し、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、緊急時、事故発生時には緊急時対応マニュアルに沿って対応している。また職員会議等で緊急時対応の再確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、非常災害時の対応マニュアルを作成し、消防署、防災業者の協力を得て避難訓練、消火器の使い方等の訓練を行っている。	年2回の避難訓練には、いずれも消防署に立ち会ってもらい、アドバイスを得ている。また、市や県の災害対策研修に参加し、災害マニュアルを作ったり、大雨時の浸水状況などの情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援の中で本人の人格を尊重した言葉かけ、プライバシーに配慮した声かけ、対応を職員一人ひとり意識するように努めている。	職員は、心に余裕をもって、笑顔で接するよう心がけ、利用者一人ひとりの思いを受け止める支援に努めている。馴染みの関係の中で、馴れ合い的な言動があれば、その都度、職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを大切にし、自己決定出来るような場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者それぞれの体調や生活のペースに合わせ、その時の本人の気持ちを尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容の方が来所し、その人に合った髪型で髪をカットしてもらっている。また、髭そり、爪切り、髪の手入れ等の日常の身だしなみに必要な支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付け、テーブル拭き、後片付け等、その人の力に応じて出来る事をして頂いている。また畑で採れたナス、きゅうり、ネギ等を使用し楽しく食事が出来るようにしている。嚥下、咀嚼能力に応じミキサー食等にも対応している。	利用者の出来ることやその日の気分に応じて、準備などを手伝ってもらっている。「この昆布の煮物、軟らかくて美味しいね」などと、おしゃべりしながら、みんなで食事を楽しむ雰囲気をつくっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を記録し栄養バランスやその日の水分量等を把握している。毎月体重測定を行い、個々の食事のバランス等の対応を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを働きかけ、緑茶を使うなどして、必要に応じた援助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表より、個々の排泄のパターンの把握に努め、必要に応じて時間ごとの声かけや誘導を行っている。状態の変化についても職員間で話し合い、個別の排泄支援を行っている。	一人ひとりの排泄に関する状態の変化に留意し、その都度、本人にとって適切な支援方法を職員間で話し合っており、排泄の自立につながる支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を日中の活動に取り入れたり、水分補給の徹底に努めている。またオリゴ糖やヨーグルトを利用して便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決められているが、本人の体調や気分、入浴拒否があれば無理強いせず翌日に振り替えられるよう対応している。また身体状態が悪い時は足浴で対応し、一人ひとりが気持ちよく入浴出来るように支援している。	その時に入りたくなければ、無理強いせず、また、予定外であっても、入りたいとの希望があれば、応えるなど、柔軟に支援している。湯温など、体調に配慮しながら本人の希望に沿っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所内の過ごし方は本人の体調や表情などを見て居室、ソファや畳スペースで利用者のペースに合わせてゆったり休んでもらえるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明書を各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時、他の職員にも間違いがないよう薬の確認をしてもらってから、本人に手渡し、状況により口腔内に入れる支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の体調や気分に合わせて洗濯物たたみ、洗濯物干し、食事の盛り付け等の手伝いをしてもらっている。また裁縫など、本人の趣味を生活の中での役割として取り入れている。（ズボンの補修等）		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度、少人数ではあるが外出できるよう努めている。季節ごとに外出する機会を設けているが、利用者の精神面、身体面の重度化が進み、外出が出来ない事も増えてきている。	利用者の体調や希望に合わせて、散歩や外気浴を行っている。初夏には花菖蒲を見に出かけるなど、楽しみごとの外出を行うよう努めている。外出が難しい利用者もいるが、デッキに出ての「青空ランチ・青空ティータイム」を行い、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族と相談し、事務所で預かる事になっている。金銭の使途については、現金出納帳を管理し定期的に家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば随時電話で話せるようにしている。また、手紙を書かれた場合は投函するなど支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や植物、季節の装飾を飾り、季節に合わせた利用者の作品を展示したり、行事の写真を貼り、皆が楽しく過ごせるような雰囲気づくりに取り組んでいる。	秋には、コスモスの貼り絵を作り、リビングに飾るなど、季節感を取り入れながら和やかな雰囲気をつくっている。また、洗濯物を取り込んだり、キッチンから野菜を炒める香りが流れるなど、家庭的な環境をつくり、穏やかな暮らしの支援に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンとリビングは一体的でホール全てが視界に入り易い。職員が色々と考えてテーブルやソファの位置を変えたりして、落ち着きのある空間作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた家具を自由に配置してもらっている。また、昔の写真や家族との写真、本人が描いた絵なども飾ったり、仏壇を置かれている方もおられる。	使い慣れた整理タンスや衣装ラックなどを置いて、入居前の生活の継続に努めている。また、家族の写真などを飾り、孫やひ孫から「おばあちゃんの家」と呼んでもらうなど、一人ひとりに合わせた居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり、廊下やトイレ、浴室には手すりが設置され利用者が安心、安全に暮らせるように配慮している。またトイレを認識出来るように表示を見やすい位置に掲示している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ふれあいホーム小泉

作成日 平成 29年 11月 30日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災に対しての訓練は行っているが、地震、大雨による河川の氾濫等の非常災害時の避難訓練は行えていない。	非常災害時を想定した避難訓練の実施により、安全に避難出来る時間の把握、避難先や避難方法の確認を行う。	職員会議で非常災害のマニュアルの再確認と共に、非常災害時を想定した避難訓練の実施を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

ふれあいホーム小泉